

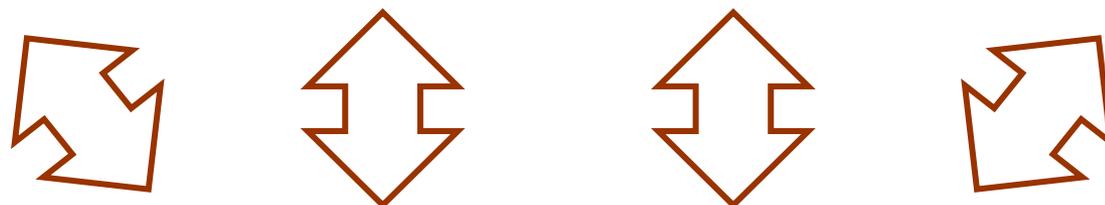
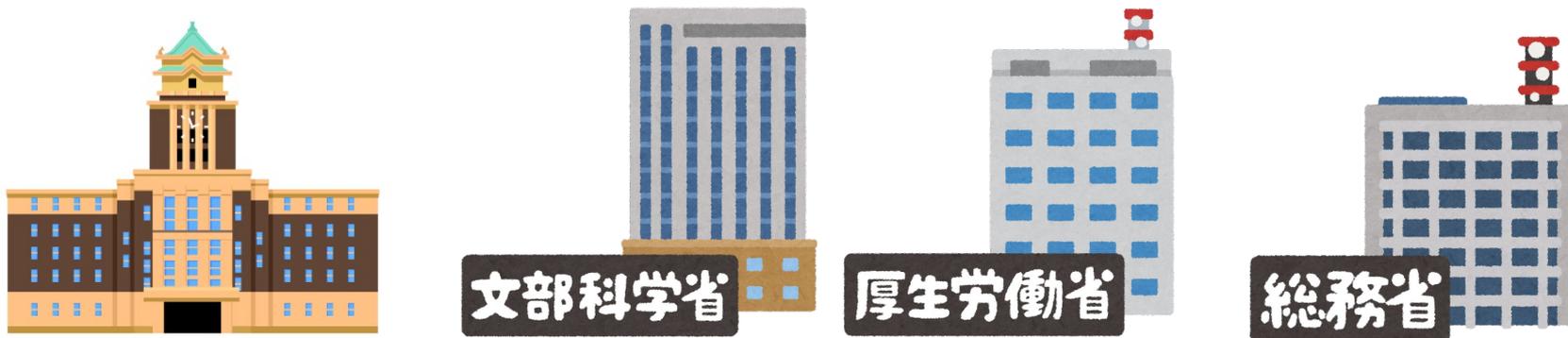
公立大学協会  
令和6年度 職員セミナー  
2024.9.6

# 名古屋市立大学の取り組みのご紹介

1. 設置団体との協働のための仕組み作り
2. 市立病院の附属病院化と働き方改革
3. 設置団体と連携した研究力強化

一般社団法人公立大学協会 会長  
名古屋市立大学 副理事長・学長  
浅井清文

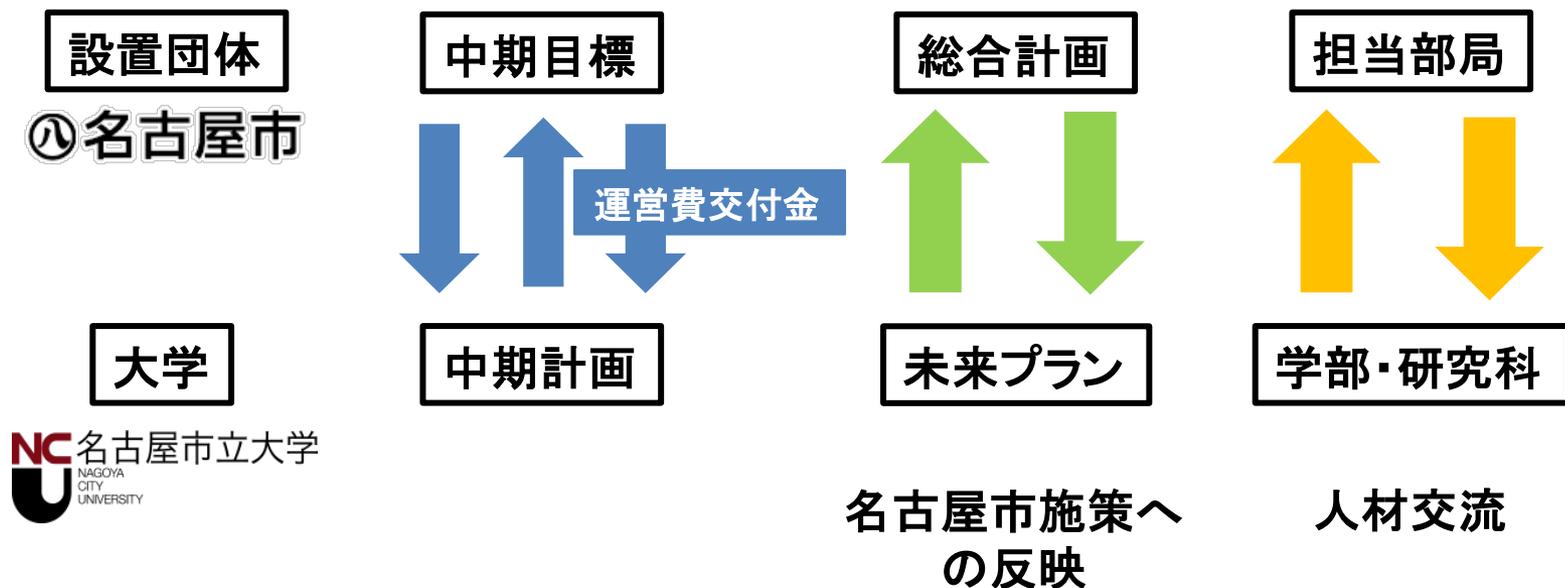
# 行政との連携



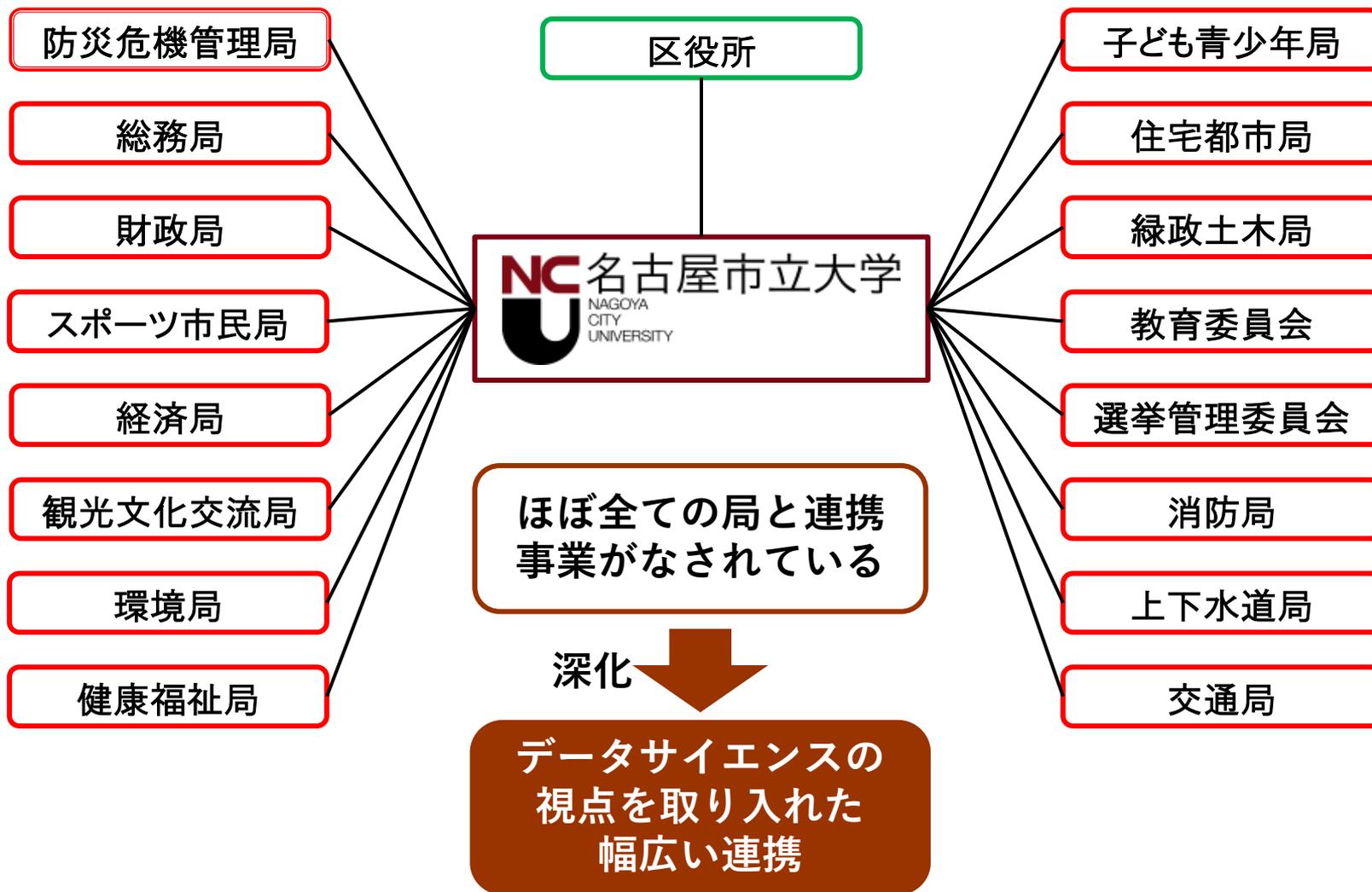
教員・職員の人事交流



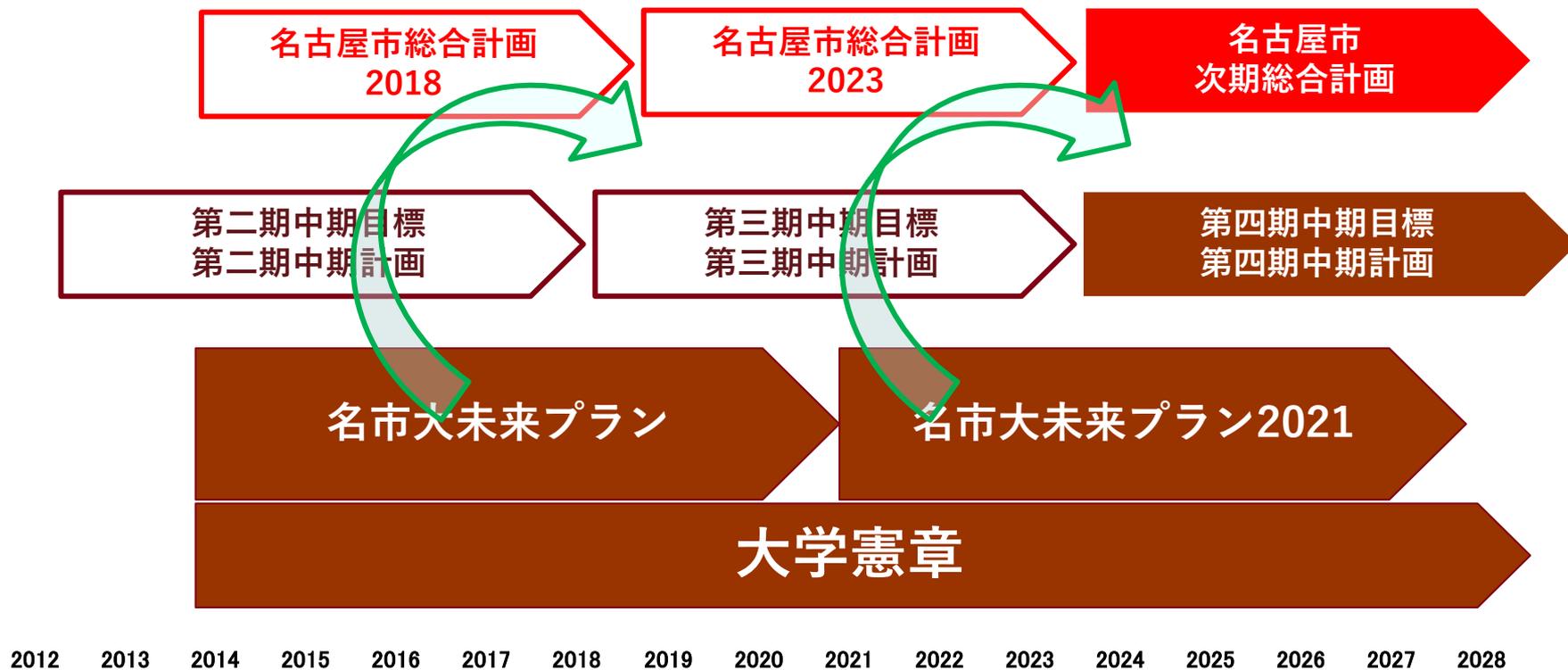
# 設置団体の施策との連携



# 設置団体との連携



# 大学プランを設置団体の施策へ



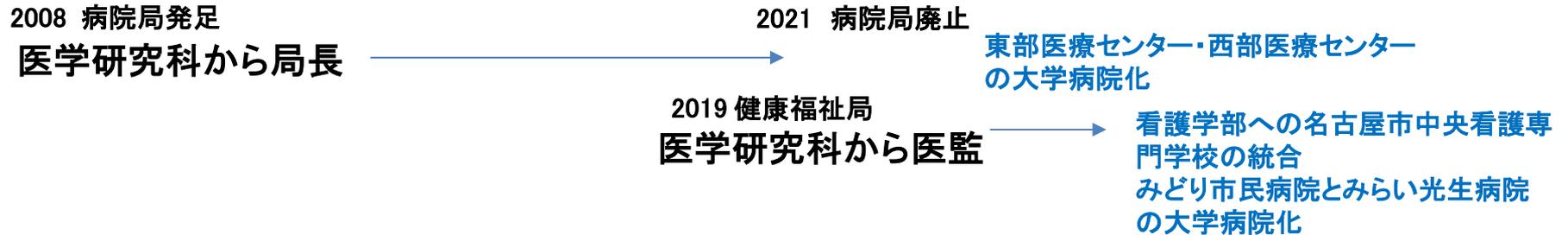
設置団体の将来計画と大学の中期目標・中期計画の連動

# 名古屋市の大学担当部局の変遷と人事交流

## 名古屋市の大学担当部局



## 人事交流



第二期中期目標  
第二期中期計画

第三期中期目標  
第三期中期計画

名市大未来プラン

名市大未来プラン2021

大学憲章

2012 2013 2014 2015 2016 2017 2018 2019 2020 2021 2022 2023 2024 2025 2026 2027 2028

公立大学協会  
令和6年度  
公立大学中堅職員セミナー  
2024.7.18

# 名古屋市立大学の取り組みのご紹介

1. 設置団体との協働のための仕組み作り
2. 市立病院の附属病院化と働き方改革
3. 設置団体と連携した研究力強化

# 地域医療を支える公立大学附属病院

## 地域医療を支える公立大学附属病院(令和5年11月時点)

※ … (国公私含め)県内唯一の附属病院を有する大学

### 奈良県立医科大学 ※

- ・奈良県立医科大学附属病院

### 京都府立医科大学

- ・京都府立医科大学附属病院
- ・京都府立医科大学附属北部医療センター

### 大阪公立大学

- ・大阪公立大学医学部附属病院

### 和歌山県立医科大学 ※

- ・和歌山県立医科大学附属病院
- ・和歌山県立医科大学附属病院紀北分院

### 九州歯科大学

- ・九州歯科大学附属病院

### 札幌医科大学

- ・札幌医科大付属病院

### 福島県立医科大学 ※

- ・福島県立医科大学附属病院
- ・福島県立医科大学会津医療センター

### 茨城県立医療大学附属病院

(自治体直営)

### 横浜市立大学

- ・横浜市立大学附属病院
- ・横浜市立大学附属市民総合医療センター

### 名古屋市立大学

- ・名古屋市立大学病院
- ・名古屋市立大学病院医学部附属東部医療センター
- ・名古屋市立大学病院医学部附属西部医療センター
- ・名古屋市立大学医学部附属みどり市民病院
- ・名古屋市立大学医学部附属みらい光生病院

# (1) 名古屋市立大学の概要 ①附属病院群の全体像

高度急性期・急性期の病床が中心の3つの附属病院に、令和5年4月より回復期・慢性期の病床を有する『みどり市民病院』と『みらい光生病院』が加わったことで、附属病院群として高度急性期から慢性期まで幅広い医療の提供をしていきます。また、令和7年4月には名古屋市総合リハビリテーションセンター附属病院の大学病院化を予定しています。

多様な症例に触れることにより、質の高い医療人の育成や、健康長寿に資する予防・治療や回復期・慢性期のリハビリテーションなどの研究を推進することで研究領域が拡大し、その成果の還元を通じて地域の医療水準の向上に貢献していきます。

令和5年4月大学病院化

令和5年4月から  
5病院体制へ



東部医療センター(520床)  
(令和3年4月大学病院化)

高度急性期・急性期



みどり市民病院(205床)

急性期・回復期



名古屋市総合  
リハビリテーションセ  
ンター附属病院

令和7年4月  
大学病院化予定

令和5年4月大学病院化



みらい光生病院(140床)

回復期・慢性期



市立大学病院(800床)

高度急性期・急性期



西部医療センター(500床)  
(令和3年4月大学病院化)

高度急性期・急性期

病床数 約2,200床  
国公立大学最大級

# (1) 名古屋市立大学の概要 ②市の医療施策への全面的な協力

名古屋市と連携し、「なごや医療モデル（仮称）」における取組みを推進します

## なごや医療モデル（仮称）

市民が求める安全・安心な医療・介護サービスの提供体制を構築

関係機関と連携

名古屋市

民間医療  
機関等

救急・災害医療や  
新興・再興感染症への対応

地域包括ケアシステムの深化・  
推進に係る高齢者医療等の充実

医療人材の育成・確保と  
地域の医療水準の向上

愛知県  
その他  
自治体

企業  
研究機関

介護  
事業者

名古屋市立  
大学

名古屋市立大学  
医学部附属病院群

全国の国公立大学病院で最大級の  
約2,200床の病床数を有する

名古屋市立大学病院

東部医療センター

西部医療センター

みどり市民病院

令和5年4月  
大学病院化

みらい光生病院

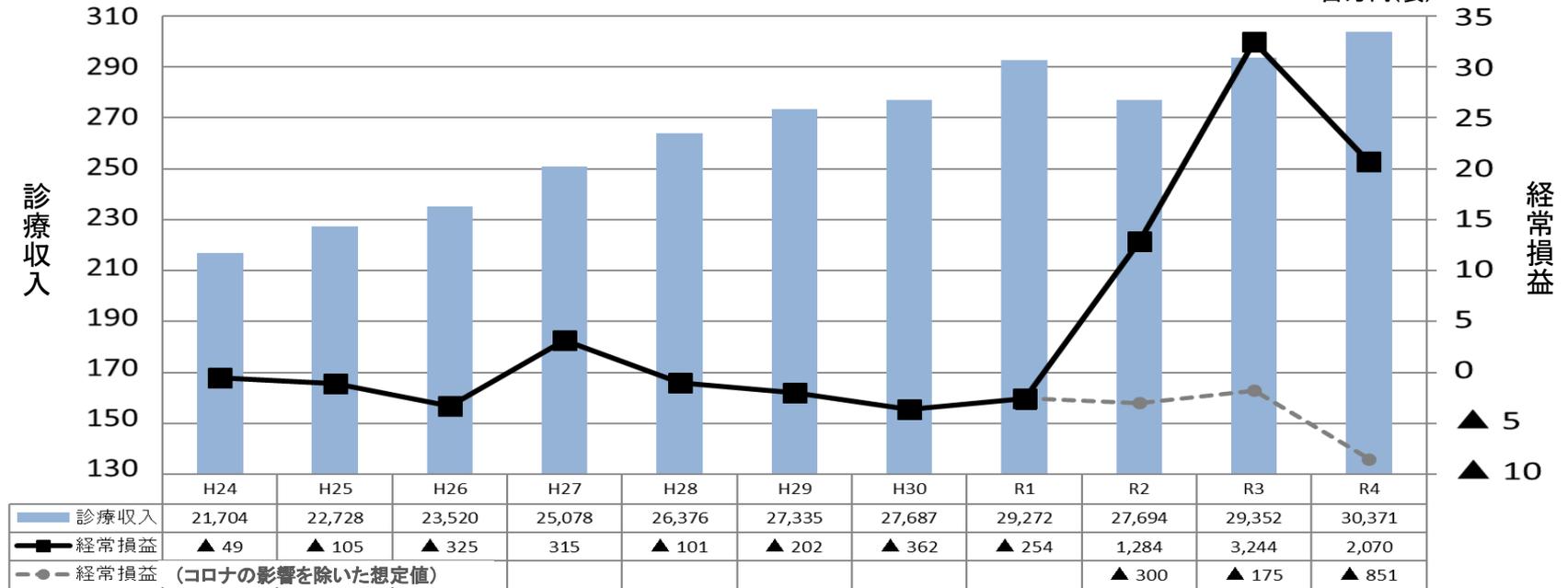
名古屋市総合リハビリテー  
ションセンター附属病院

令和7年4月  
大学病院化予定

## (2) 現状と課題 ①市立大学病院の財務状況

### 市立大学病院における診療収入と経常損益の推移

単位：億円(グラフ)  
百万円(表)



#### <現状>

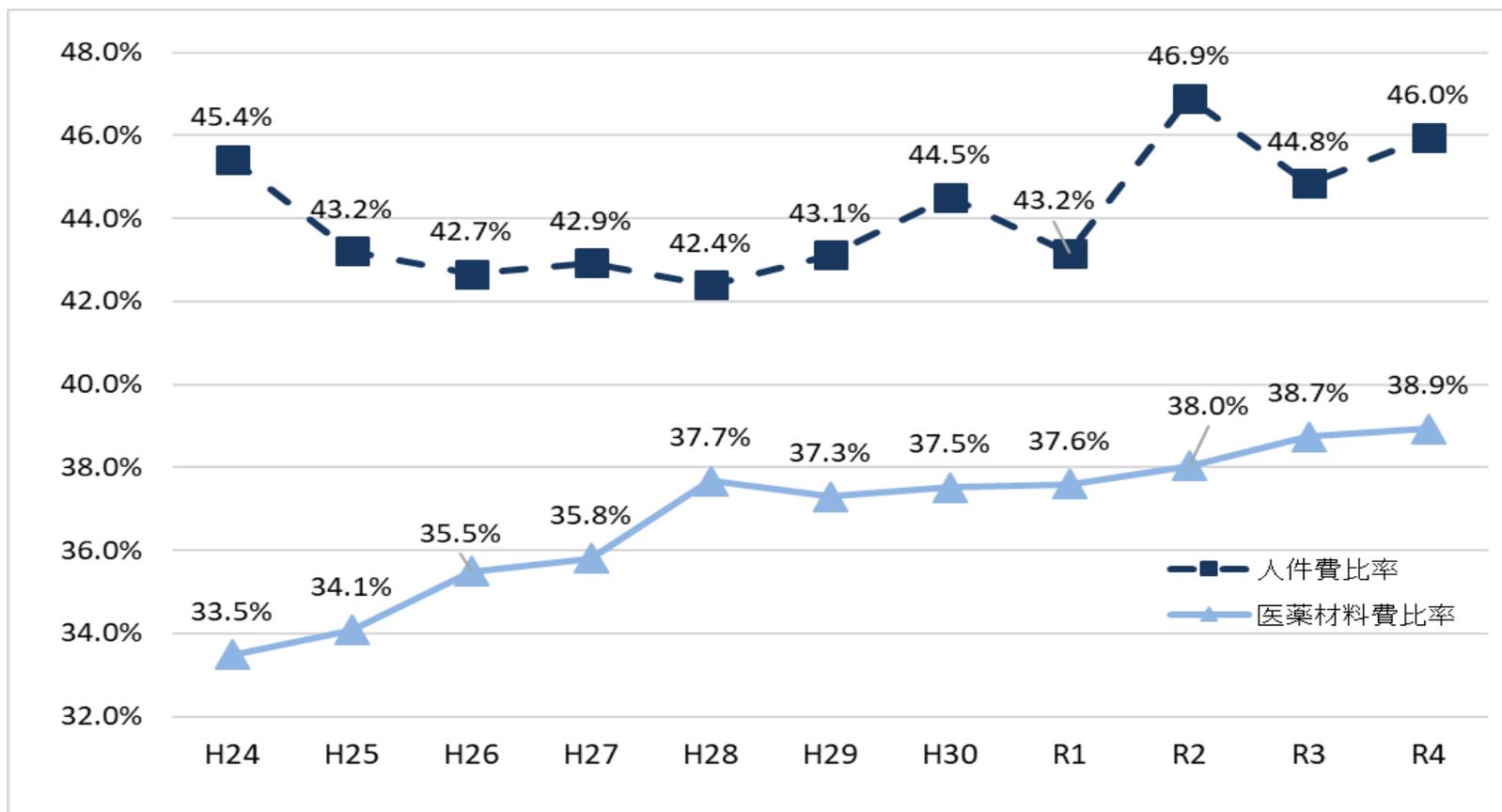
- ・診療収入は右肩上がり伸びているものの、高額な医薬材料の使用増加等の影響により、経常損益は減益傾向にある
- ・令和4年度の経常損益(コロナの影響を除いた想定値)については、光熱費や人件費の増加が影響し、大きな減益が見込まれる

#### <課題>

- ・医師の働き方改革に伴う人件費等の増加により、さらなる減益が見込まれる

## (2) 現状と課題 ①市立大学病院の財務状況

### 市立大学病院における人件費比率・医薬材料費比率の推移



※ 分母は診療収入

## (2) 現状と課題 ②教育・研究時間の減少

### 《教育における現状と課題》

#### 現状・問題点

- 診療に費やす時間の縮減は困難であるため、総労働時間の縮減の取り組みにより、教育・研究にかかる時間が削減されてしまう。
- OSCEの公的化、モデル・コア・カリキュラムの改正などにより、教育にかかる時間は増加している。
- これまでの医学的な知識・技術中心の教育から、医師として求められる基本的な資質・能力、多職種連携などを含めた教育へと幅が広がっている。

## (2) 現状と課題 ②教育・研究時間の減少

### 《研究における現状と課題》

#### 現状・問題点

(背景)

大学病院化による5附属病院群の形成

- ➡ 研究領域の拡大(高度急性期から慢性期まで)、研究風土の醸成
- ➡ さらなる研究の活性化が期待されている

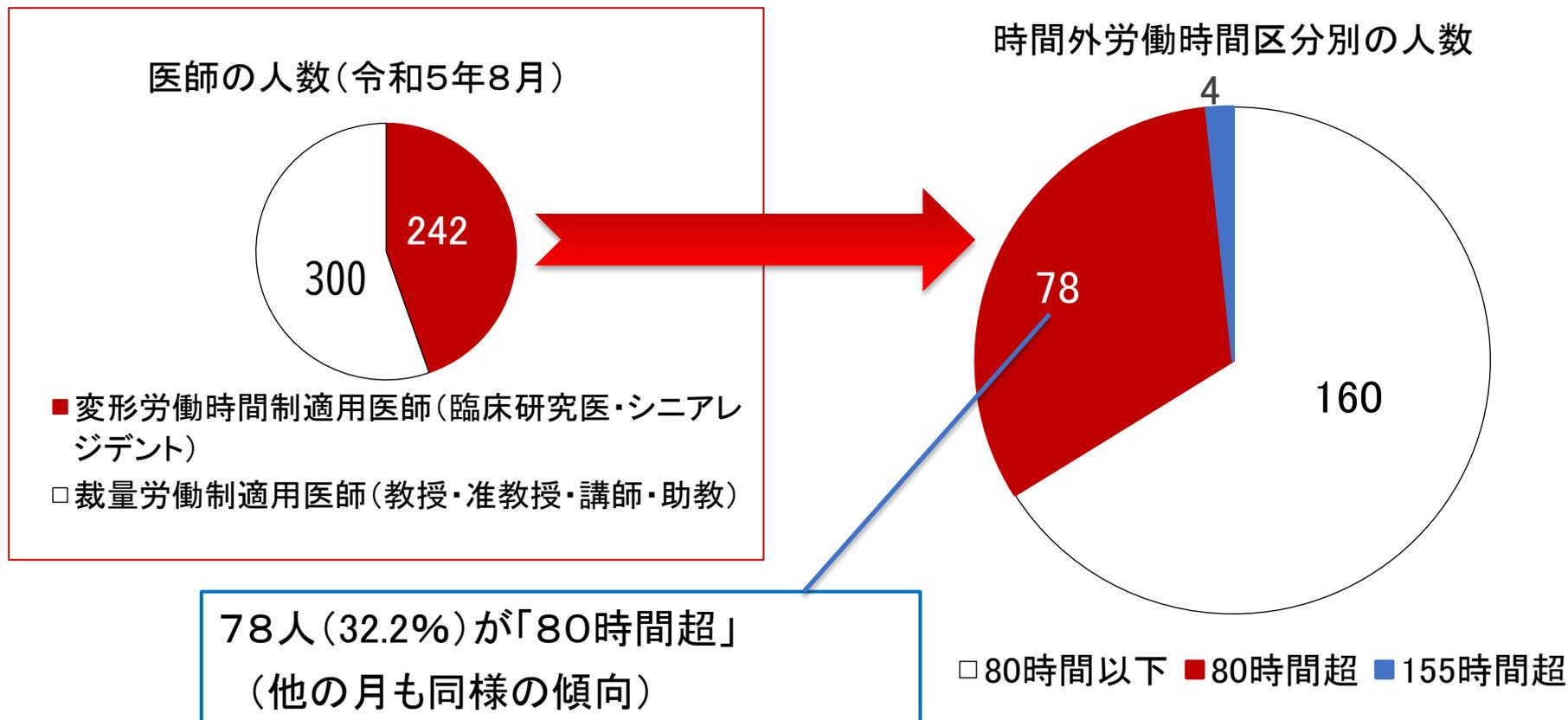
- 5病院に跨る包括的な臨床研究支援・管理組織を構築し、研究支援を実施しているが、医師をはじめ診療業務が忙しく研究に注力する時間が少ない研究者のニーズに十分応えられていない
- 働き方改革によりさらに研究エフォートが減少する懸念
- 研究に必要な機器、スペースが不足している

#### 課題

『研究支援人材の充実』と『研究設備・機器の整備』が急務

### (3) 働き方改革 ①市立大学病院の取り組み

#### ■変形労働時間制適用医師(臨床研究医・シニアレジデント)の時間外労働の実態



※「80時間」=年960時間換算(A水準)、「155時間」=年1,860時間換算(B水準、連携B水準等)

### (3) 働き方改革 ①市立大学病院の取り組み

#### ■ 地域医療を支える医師派遣（兼業）

令和4年度、336の地域医療機関（名古屋市内148、市外(県外含む)188)で529人、延べ44,679人の医師が兼業による診療業務を行った



- ・1医療機関あたり1～2人、延べ133人
- ・医師1人あたり84回（週1～2回）

#### ■ 行政との連携によるコロナワクチン接種

令和4年度、名古屋市大規模接種会場等において329人、延べ604人の医師が接種業務を行った

#### 《現状と課題》

- 医師の時間外労働が常態化（月80時間超が約3割）
- 地域の医療提供体制、医療政策に深く貢献（今後も必要不可欠）
- 労働時間管理の徹底と業務の見直し・効率化が喫緊課題

## (3) 働き方改革 ①市立大学病院の取り組み

### ■医師の働き方改革に伴う大学病院改革「3つのステップ」

- ① 新たな勤怠管理システムの導入による労働時間管理を2023年12月から順次実施(各診療科・部門の勤怠管理担当者を8月に任命済み)

兼業先を含む診療時間、研鑽時間、教育・研究時間のバランスを考慮したタイムマネジメント



- ② 救急災害医療センター開設(令和7年夏)を見据えた人員体制の見直し・増強を令和6年度から順次実施(看護師等一部職種は着手済み)

メディカルスタッフの充実によるタスク・シフト／シェア

⇒医師の時間外労働上限時間規制の解消(令和17年度末)を視野に



- ③ 電子カルテをはじめとする医療DX、医療機器・インフラ環境の計画的整備を推進(第4期中期計画)

人手・労力を減らし業務効率化・機能向上 ⇒運営・人員構造改革の実現

# (3) 働き方改革 ②東部医療センターの取り組み

## 名古屋市立大学医学部附属東部医療センターにおける医師の働き方改革



### 地域医療支援病院

紹介率 87.7%/令和4年度

### 救命救急センター

救急車受け入れ台数 7,208件/令和4年度

### 第二種感染症指定医療機関

新型コロナウイルス感染症入院患者総数 1,623名  
延べ数16,647名(令和2年2月14日～令和5年5月7日)

目指す方向 ↓

DPC特定病院群(旧DPC II 群病院)  
愛知県がん診療拠点病院(愛知県知事指定)

### 大学病院としての東部医療センターの責務 → 臨床研究の推進

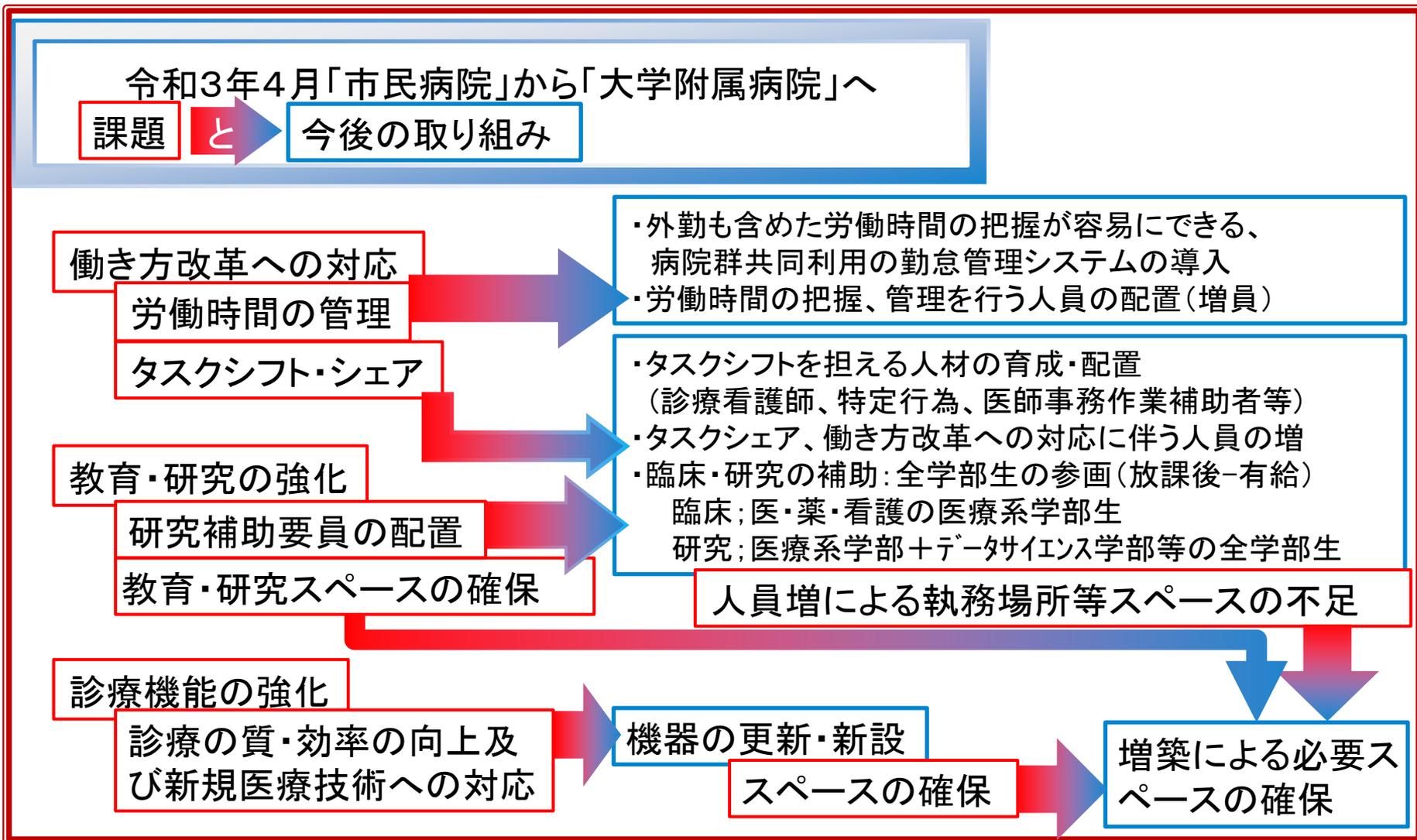
自己研鑽として臨床研究を行うことになるが、それには勤務時間の厳密な管理が必要。

**外勤を含めた勤怠管理システムの導入が必須。**

少ない時間を活かし研究を効率的に行うために、臨床研究試験管理センターの強化が必要。

**研究のためには事務経費の確保が必須。**

# (3) 働き方改革 ③西部医療センターの取り組み



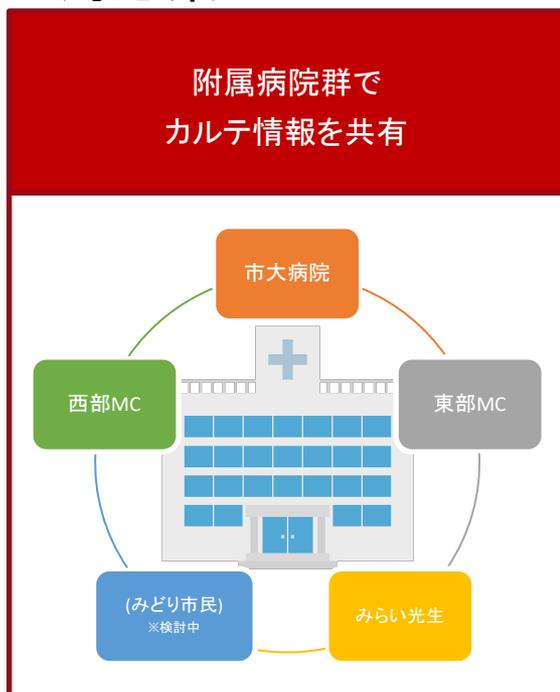
# (3) 働き方改革 ④ 附属病院群全体の取り組み

## 医療DXの推進

### 1. 背景

- 医師の勤務時間の削減のみならず、病院経営の効率化、患者サービス向上のため、医療DXによる働き方の変革が必要となっている。

### 2. 対応策



(現在)

- 附属病院群でカルテ情報を共有する仕組みの構築
- 各院による個々の取り組み



(発展)

- システムを刷新(附属病院群同一システムの検討)



(さらなる発展)

- 業務のあり方を変革し、附属病院群全体での業務効率化を図る

#### 【検討例】

- 附属病院群のスケールメリットを活かしたデータ利活用
- 携帯型端末による、時間・場所を選ばない電子カルテ操作の実現
- 問診票などの紙媒体からの転記を削減

公立大学協会  
令和6年度  
公立大学中堅職員セミナー  
2024.7.18

# 名古屋市立大学の取り組みのご紹介

1. 設置団体との協働のための仕組み作り
2. 市立病院の附属病院化と働き方改革
3. 設置団体と連携した研究力強化

- 第三期中期計画期間中（～2023年度）の課題

## 研究のための時間の確保・拡充

教育分野におけるタスクシフト/シェアの推進  
研究支援人材の充実と研究設備・機器の整備



- 第四期中期計画（2024年度～）への反映

## 重点項目

1, 研究力強化 2, 国際化 3, DXの推進  
4, キャンパス整備（附属病院群の建替えを含む）



- 設置団体の理解と予算確保

## なごや共創研究基金

# 設置団体と連携した研究力強化

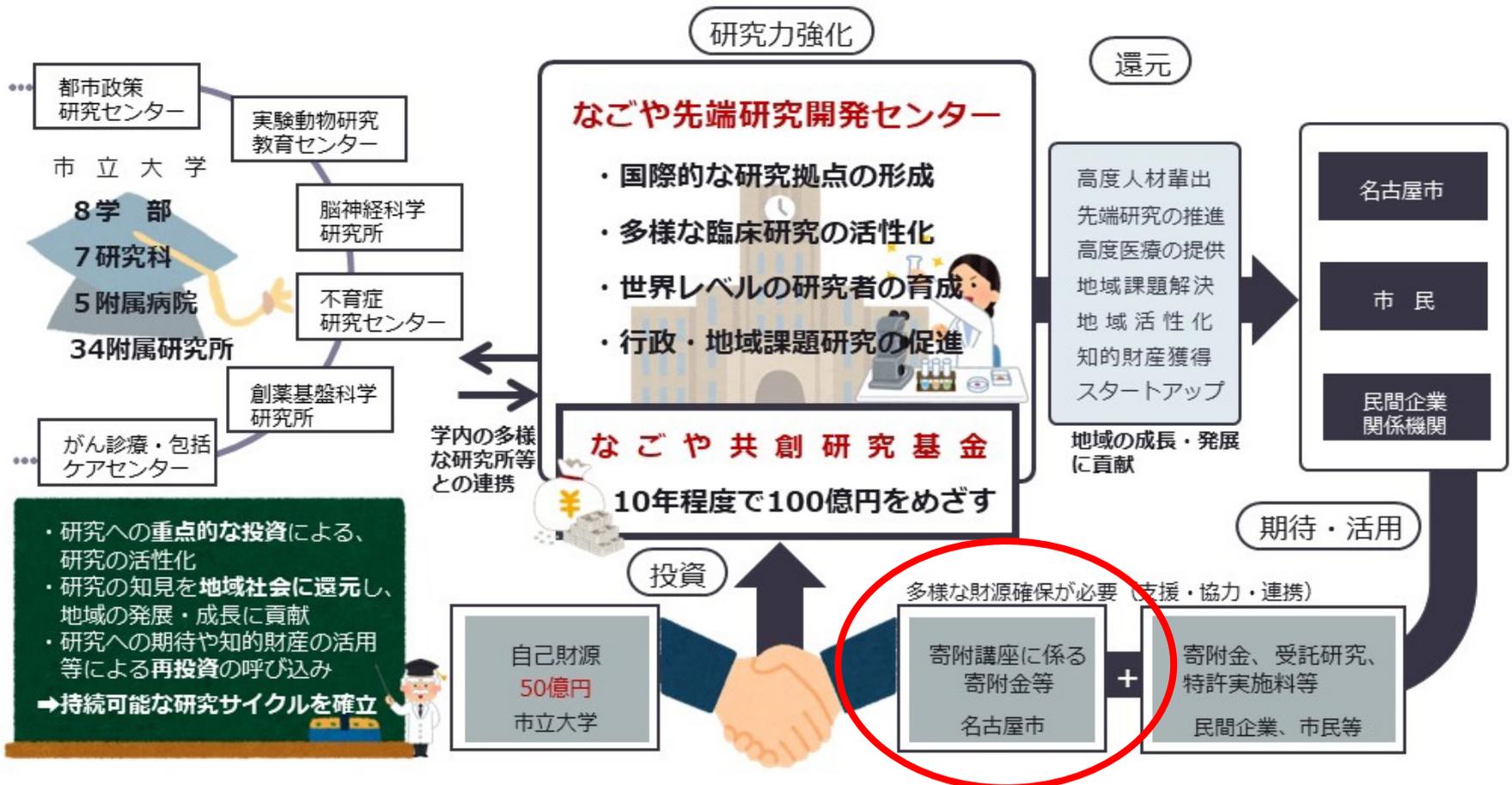


## なごや共創研究基金の創設

ビジョン

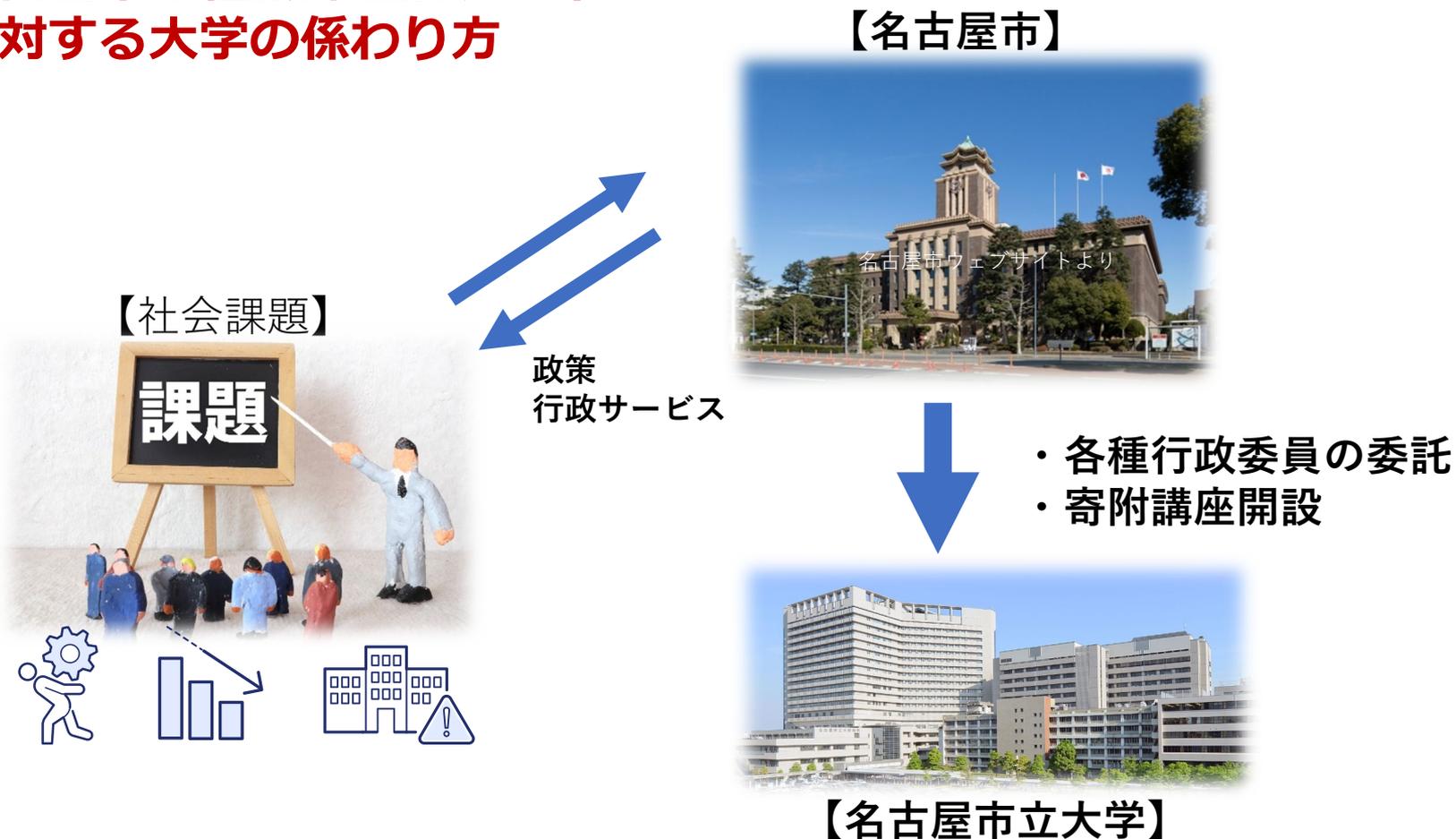
世界をリードする魅力ある大学

「世界への発信」と「地域への貢献」



# 従来からの設置団体との連携

## 名古屋市社会課題解決政策 に対する大学の係わり方



# 設置団体と連携した新たな研究力強化

【名古屋市】

大学が名古屋市の政策課題へ  
積極的な提案を行う  
新たな仕組み



【社会課題】

課題

政策  
行政サービス

大学が  
変わる

プッシュ型  
シンクタンク  
課題の提示・情報  
提供・施策提案

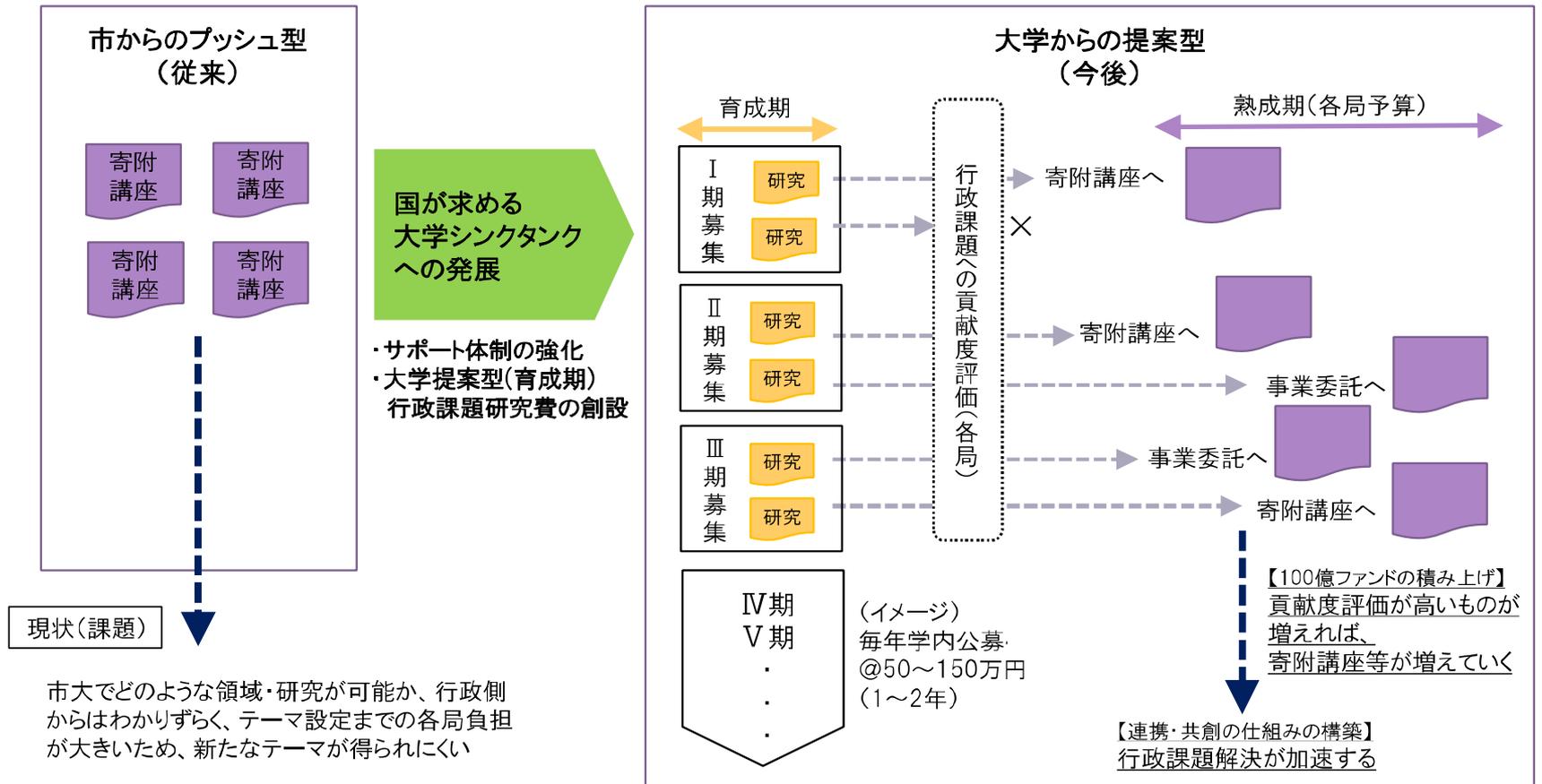


【名古屋市立大学】

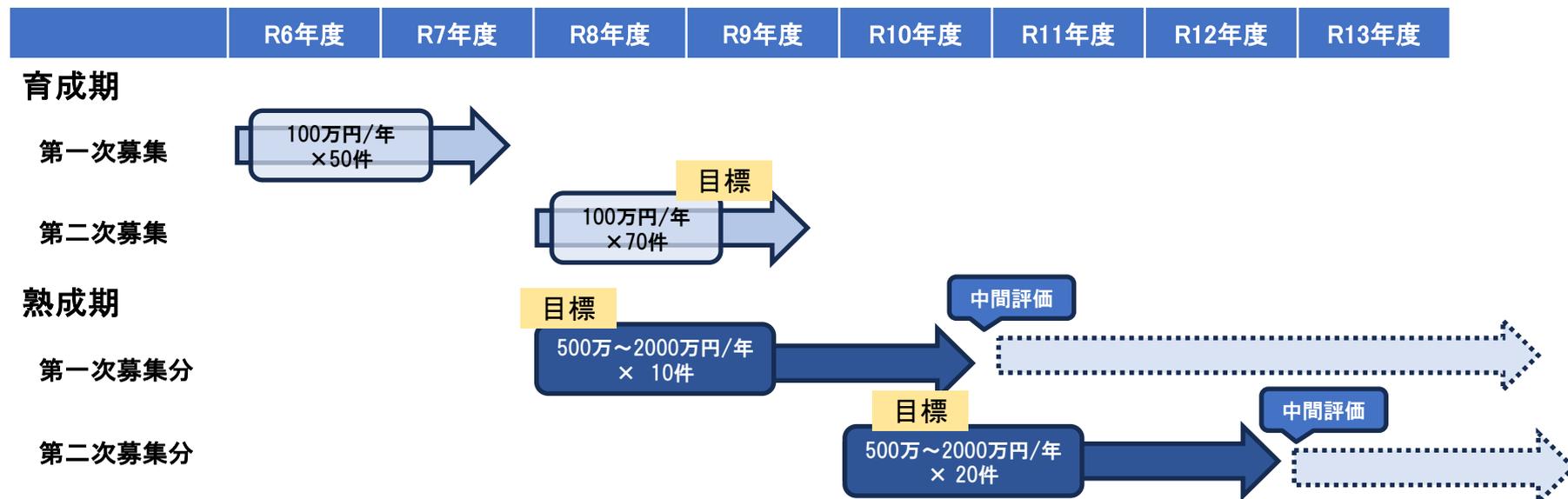
なごや共創研究基金  
(10年間100億円を目標)  
2023年設立  
民間を巻き込んだ連携

大学が行政のプッシュ型シンクタンクとして機能するための仕組みを整備

# 共創まちづくり研究推進事業（概要）



# 共創まちづくり研究推進事業



## 募集テーマ

- |               |                 |
|---------------|-----------------|
| 1. 少子化・健康長寿   | 7. SDGs         |
| 2. 子育て・キャリア支援 | 8. 多文化共生・異文化交流  |
| 3. なごや学       | 9. ビッグデータ解析     |
| 4. DX・イノベーション | 10. ライフサイエンス    |
| 5. 災害対策・環境保全  | 11. その他市民に役立つ研究 |
| 6. スポーツ       |                 |



163件の研究提案があり、  
50件を採択

詳しくは  
プレスリリースを

